



桜草に関する資料一覧

〒335-0021 戸田市大字新曽1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

ここでは、「戸田の桜草」について記述のある資料を一覧にして紹介します。

※紹介資料は、戸田市立図書館で内容を確認し、所蔵館が判明している資料のみです。

●桜草についての調べ方は、「[戸田の桜草について調べるには](#)」のページを参照してください。

目次

1 百科事典、植物図鑑、園芸図鑑等	5 俳句、俳句歳時記等
2 園芸資料 (江戸の桜草売り含む。)	6 郷土資料 (戸田、中山道、荒川)
3 桜草のみを扱った資料	7 戸田市以外の地域の資料
4 名所案内、地誌、紀行、年中行事等	8 新聞記事

1 百科事典、植物図鑑、園芸図鑑等

書名	出版者	出版年	分類	本があります場所
『大百科事典』 第10巻	平凡社	1934	R031	本館2階・参考資料室
	p.458-459「サクラソウ」 『 桜草作伝法 』からの引用で「戸田」の地名が登場します。			
『園芸大辞典』 第2巻	誠文堂新光社	1950		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.945-953「さくらそう」 「来歴」に『 桜草作伝法 』（写本）からの引用で「戸田」の地名が登場します。			
『原色園芸 植物図鑑』3	保育社	1972	R627	本館2階・参考資料室
	p.79「さくらそう」 解説文「来歴」に「戸田ヶ原に自生」とあります。			
『原色園芸 植物大図鑑』	北隆館	1984	R620.3	本館2階・参考資料室
	p.351「サクラソウ」 江戸時代には荒川流域の浮間ヶ原、「戸田ヶ原」等に桜草の大群落があったことが分かります。			
『春の山野草』	創元社	1984	T470	本館2階・郷土特集棚
	p.157「サクラソウ」 江戸時代から明治年間までは「戸田ヶ原」等に桜草の群落があったことが分かります。			
『園芸植物図譜』	平凡社	1986	R627.0	本館2階・参考資料室
	p.158-159「さくらそう」 栽培品「戸田ヶ原」の解説文に「埼玉県戸田ヶ原」とあります。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手続きが必要です。

2 園芸資料 江戸の桜草売りも含む。

① 桜草が出ている園芸書

書名	出版者	出版年	分類	本があります場所
『四季の園芸』	誠文堂書店	1916		国立国会図書館インターネット公開資料
	大正5年(1916)に発行された園芸書です。 p.211-219「桜草小話」 桜草の自生地の一つとして「戸田の原」の地名が登場します。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/981131			
『園芸三十六花選』	嵩山房	1917		国立国会図書館インターネット公開資料
	大正6年(1917)に発行された園芸書です。 p.1-18「桜草」 桜草の自生地の一つとして「戸田河原」の地名が登場します。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/955339			
『趣味の園芸』	隆文館図書	1917		国立国会図書館インターネット公開資料
	大正6年(1917)に発行された園芸書です。 p.103-108「桜草」 桜草の名所の一つとして「戸田の原」の地名が登場します。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/955286			
『新選四季の草花』	正文社書房	1925		国立国会図書館インターネット公開資料
	大正14年(1925)に発行された園芸書です。 p.109-111「さくらさう(桜草)」 桜草の原産地の一つとして「戸田」の地名が登場します。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/919265			
『草花庭木の作り方』	嵩山房	1925		国立国会図書館インターネット公開資料
	大正14年(1925)に発行された園芸書です。 p.63-65「桜草」 桜草が初めて世に知られたのが徳川時代で「武州戸田の原」に発見されたと紹介されています。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/982422			

② 江戸時代の園芸について書かれた資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『豊島区立 郷土資料館 常設展図録』	豊島区教育委員会	1984		国立国会図書館
	p.49「江戸の花名所図」 江戸時代後期の花の名所を地図で表したものに「戸田の原 さくら草」という表記があります。			
『駒込・巣鴨の 園芸史料』 豊島区立郷土資料館 調査報告書第1集	豊島区教育委員会	1985		国立国会図書館
	p.105「天保九年 花の名所 桜草」 花の名所を紹介した史料に、桜草の名所として「立春より七十五日頃。戸田の原（戸田の川上に添たる原）」という記述があります。			
『植木屋のある風景』	豊島区教育委員会	1993		国立国会図書館
	p.17「江戸時代後期における江戸の花名所」 『豊島区立郷土資料館常設展図録』に掲載されている「江戸の花名所」の転載です。			
『季節の伝統植物』	国立歴史民俗博物館	2002	T472.1	本館2階・郷土特集棚
	p.14「伝統のサクラソウ」 「戸田ヶ原」等で採取し栽培されてきた品種の写真が掲載されています。			
『週刊花百科』 No.56 桜草と忘れな草 (2005年4月7日号)	講談社	2005		さいたま市立桜図書館
	p.12「江戸時代から現代までの桜草の名花」 「明治初頭の荒川流域、戸田原のサクラソウ群落を描いた浮世絵」(国立国会図書館蔵)が紹介されています。			
『十九世紀 日本の園芸文化』	思文閣出版	2006		埼玉県立熊谷図書館
	p.47「表1『花みのしおり』(架蔵)に見る江戸の花名所」、p.318「図45『花みのしおり』部分(架蔵)」 江戸時代の花名所案内「 花みのしおり 」からの抜粋に「桜草 千住の野・野新でん・戸田河原」という記述があります。			



③ 江戸時代の桜草売りが載っている資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『江戸府内 絵本風俗往来』 上編	東陽堂	1905		国立国会図書館インターネット公開資料
	<p>明治38年(1905)刊行。著者菊地貴一郎(画家・4代目広重 1848-1925)が幼年時代に見聞した江戸の年中行事を記したものです。</p> <p>p.14 「三月」内「桜草売」 「桜草売」の解説に「植木屋の荷ない売は、戸田河原辺に生い繁りて花咲く桜草にして、至って野生の種なり。」という記述があります。</p> <p>アドレス：http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/767856</p> <p>※この資料は、『絵本江戸風俗往来』(平凡社、1968年)という書名で東洋文庫にも収録されています。但し、原本を再編集した形での収録となります。</p>			
『江戸物売図聚』 <small>しゅう</small>	立風書房	1979	384.38	本館1階・開架閲覧室
	<p>p.64 「桜草売り」 『江戸府内絵本風俗往来』及び『東都歳事記』からの引用で「戸田河原」及び「戸田の原」という地名が登場します。</p>			
『定本江戸商売図絵』	立風書房	1986	-	埼玉県立図書館(外部書庫)
	<p>p.282 「桜草売り」 桜草売りの解説に「戸田河原辺に繁っている桜草」という記述があります。</p>			
『江戸商売往来』	プレジデント社	1993	627.13	本館・書庫
	<p>p.19 「桜草売り」 『絵本風俗往来』(書名に「江戸府内」の角書がありませんが、『江戸府内絵本風俗往来』のことだと思われます。)及び『東都歳事記』(本文には『東都歳時記』とありますが、これは『東都歳事記』の別称です。)からの引用で「戸田河原」及び「戸田の原」という地名が登場します。</p>			
『江戸の生業事典』	東京堂出版	1997	R384.3	本館2階・参考資料室
	<p>p.147 「桜草売り」 『絵本江戸風俗往来』及び『東都歳事記』(本文には『東都歳時記』とありますが、これは『東都歳事記』の別称です。)からの引用で「戸田河原」及び「戸田の原」という地名が登場します。桜草を題材にした俳句も紹介されています。</p>			



3 桜草のみを扱った資料

① 園芸書

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『桜草作伝法』	写本	不詳	国立国会図書館インターネット公開資料	
	桜草の栽培法と歴史を紹介した江戸時代の園芸書です。 ページの記載なし 桜草の概要を記した冒頭部分に「武蔵の地に生そめしにて戸田川の野原よりして」、及び「戸田にて見事の絞り花見出し賞美され須磨浦と名付られ」という記述があります。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2536336			
『桜草とプリムラ』	東文堂	1917	国立国会図書館インターネット公開資料	
	p.16-22「邦産桜草の来歴」 『桜草作伝法』からの引用で「戸田」の地名が登場します。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/955320			
『和洋桜草の栽培』	養賢堂	1927	国立国会図書館デジタルコレクション	
	p.5-6「徳川時代に於ける桜草の流行」 『桜草作伝法』からの引用で「戸田」の地名が登場します。 p.15-17「桜草の名所」 桜草の名所として「戸田の原」をあげている他、数か所に「戸田」の地名が登場します。			
『桜草の作り方』	博文館	1941	国立国会図書館デジタルコレクション	
	p.11「日本桜草栽培の起源」 「戸田の原」の桜草が家康の目にとまったという記述があります。 p.25-26「日本桜草の原産地」 桜草の原産地として「戸田」の地名が登場します。 p.41-42「日本桜草の品種」 「戸田ノ原」という原種の桜草の写真が掲載されています。			
『日本桜草』	加島書店	1959	国立国会図書館デジタルコレクション	
	p.34-36「さくらそうの故郷」内 桜草原産地の一つとして「戸田ヶ原」「戸田原」という地名が登場します。 p.39-40「日本桜草のおいたち」 『桜草作伝法』からの引用で「戸田」の地名が登場します。 p.50「流行の歴史」 『桜草作伝法』からの引用で「戸田」の地名が登場します。			
『さくらそう』	保育社	1976	T627.5	本館2階・郷土特集棚
	p.98「日本さくらそうの生い立ち」 桜草の自生地の一つとして「戸田ヶ原」という地名が登場します。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手続きが必要です。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『日本サクラソウ』	日本放送出版協会	1976	T627.5	本館2階・郷土特集棚
	p.113「日本サクラソウの生いたちと流行の歴史」 桜草の自生地の一つとして「戸田ヶ原」をあげ、江戸時代は花見の名所でもあったことが書かれています。			
『野生のサクラソウ』	誠文堂新光社	1977	-	埼玉県立久喜図書館
	p.125「日本サクラソウに見る品種数の変遷」 戸田のサクラソウを詠んだ歌が紹介されています（出典不明）。			
『さくらそう』	日本テレビ	1985	T627.5	本館2階・郷土特集棚
	p.7の図 明治時代初年の花名所を描いた『三十六花撰』の1枚「戸田原さくらそう」が掲載されています。この絵は喜斎立祥（江戸時代の浮世絵師・二代歌川広重1826-1869）の作です。 p.114-118「サクラソウ培養の歴史」 『桜草作伝法』からの引用で「戸田」の地名が登場します。			
『色分け花図鑑桜草』	学研	2006	T627.5	本館2階・郷土特集棚
	p.12、14「高原の産地から流れ下り江戸で花開いた桜草」 桜草の歴史を述べた項で「戸田ノ原」「戸田ヶ原」が登場します。			
『世界のプリムラ』	誠文堂新光社	2007	T627.5	本館2階・郷土特集棚
	p.86「画かれたさくらそう」 『三十六花撰』「東京戸田原さくら草」を紹介しています。 p.172「サクラソウの自生地について」他 桜草の自生地の一つとして「戸田」の地名が登場します。			
『桜草栽培の歴史』 第2版	創英社(三省堂書店)	2016	T627.5	本館2階・郷土特集棚
	日本における桜草栽培の歴史を紹介したもの。紹介資料の多くに「戸田」の記述が登場します。			

② 植物学的な資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『東洋学芸雑誌』 36(8)(455)	東京社	1919		国立国会図書館館内公開資料
	大正14年(1925)に執筆された雑誌論文です。 p.14-19 三好學「桜草原野の保存の必要」 「戸田原」の桜草は「乱獲が原因で消滅しつつある」との報告があります。 ※国立国会図書館内でデジタル化資料の閲覧が可能です。遠隔複写サービスも利用できます。			
『史蹟名勝 天然記念物 調査報告』 第12号	内務省	1920		国立国会図書館インターネット公開資料
	p.4 三好學「桜草ノ自生地ニ関スルモノ」 「戸田原」の桜草は、明治20年(1887)以降、乱獲等が原因で消滅したとの報告があります。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/976794			
『サクラソウの目』	地人書館	2006	T479.9	本館2階・郷土特集棚
	p.25-35「江戸の粋人も楽しんだ花の多様性」 『桜草作伝法』からの引用で「戸田」の地名が登場します。			

4 名所案内、地誌、紀行、年中行事、植物誌等

[▲ページのトップへ戻る](#)

① 江戸の名所案内、歳時記、地誌等

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『遊歴雑記』初編 2	平凡社	1989	291.3	本館 2 階・一般書シリーズ
	<p>『遊歴雑記』は、文化年間（1804-1818）に十方庵敬順^{じっほうあんけいじゅん}が江戸周辺の名勝旧跡を歩き回り、その見聞を記したものです。</p> <p>p.119「四十九」内</p> <p>「武州豊嶋郡徳丸ヶ原（東京都板橋区徳丸）」の説明の中に「戸田の川縁より志村の後蓮沼村かけて、春は一円に桜草に生じ」とあり、ここが桜草の名所であることを紹介しています。</p>			
ぶこうさんぶつし 『武江産物志』	伊藤文庫	1824	国立国会図書館インターネット公開資料	
	<p>岩崎灌園^{かんえん}（本草学者 1786-1842）著『武江産物志』（文政 7 年（1824）刊）は、江戸を中心とした武蔵国南部地域の動植物の目録です。同時に花見や銘木の案内も兼ねています。</p> <p>p.10「桜草」</p> <p>目録の「遊観類^{はなみ}」に「桜草」があり、その案内部分に「桜草」の名所の一つとして「戸田原」の地名が登場します。</p> <p>アドレス：http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2537512</p>			
『東都花暦名所案内』	不明	1878	国立国会図書館インターネット公開資料	
	<p>天保 3-4 年（1832-1833）頃に刊行された江戸の花名所案内図です。</p> <p>1 枚の地図上部「戸田」、地図欄外「春の部 桜草」</p> <p>地図上部の戸田川沿いのあたりには「サクラ草アリ」とあります。欄外の桜草の名所を案内した一覧には、「戸田原」の地名もあります。</p> <p>アドレス：http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2543059</p>			
『花見のしほり』 （『花見のしほり』は扉の書名 /題簽及び巻頭書名は『花見 のしをり』）	一瓢菴花仙	1878	国立国会図書館インターネット公開資料	
	<p>天保 4 年（1833）に刊行された江戸の花名所案内書です。</p> <p>「桜草」ページ数の記載なし</p> <p>国立国会図書館で所蔵している資料は、明治 11 年（1878）の写本です。桜草の名所の一つとして「戸田河原」の地名が登場します。</p> <p>アドレス：http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2537511</p>			
『みやびのしをり』	北島順四郎	1834	国立国会図書館インターネット公開資料	
	<p>天保 5 年（1834）に刊行された江戸の名所案内書です。</p> <p>「桜草」ページ数の記載なし</p> <p>桜草の名所の一つとして「戸田河原」の地名が登場します。</p> <p>アドレス：http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2537024</p>			

[▲ページのトップへ戻る](#)

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『東都歳事記』 春之部下 (『東都歳事記』 4巻付録1巻所収)	須原屋伊八	1838	国立国会図書館インターネット公開資料	
	江戸とその近郊の年中行事を紹介したものです。斎藤月岑(文人1804-1878)の編で天保9年(1838)に刊行されました。題名は外題簽によるもので、内題は『江戸歳事記』となっています。 p.13「二月」内「桜草」 立春より75日頃に桜草売りが「戸田の原」の桜草を「盆に移して都下に商う」と書いてあります。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8369317 ※翻刻版：東洋文庫『東都歳事記』全3巻(平凡社、1970)、『日本名所風俗図会』3(角川書店、1979)			
『諸国道中袖鏡』 (『東海道中山道道中記』)	岡田屋嘉七	1939	宮城県図書館古典籍類所蔵資料	
	天保10年(1839)に刊行された道中案内記です。 中山道 p.3「板橋から蕨」 「志村下り坂有坂下し水あり此村を出て戸田のわたし場迄原なり春の頃は桜草をたづね堀人有」と書いてあります。 アドレス： http://eichi.library.pref.miyagi.jp/eichi/detail.php?type=3&literatureid=57503			
『江戸年中行事』 (『江都近郊名勝一覧』、 『武江遊観志略』を収録)	春陽堂	1927	国立国会図書館インターネット公開資料	
	『江戸年中行事』は、三田村 鳶魚(考証・随筆家1870-1952)が江戸時代の江戸名所案内書を集めて活字化したものです。 p.295「二月/花鳥遊観略」 『武江遊観志略』(安政6年(1859)に刊行された江戸の年中行事案内書)内2月の行事の中に「桜草」とあり、「戸田の原」の地名があります。 p.511「戸田川渡し」 『江都近郊名勝一覧』(弘化4年(1847)版)内に「戸田川渡し」の項目があり、戸田川近辺が桜草の名所であると紹介しています。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1464045			
『江都近郊名勝一覧』	三河屋善兵衛	1858	国立国会図書館インターネット公開資料	
	安政5年(1858)に刊行された江戸の名所案内書です。 p.64「戸田川渡し」 「戸田川渡し」の近辺が桜草の名所であると紹介しています。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2536711			
『花暦遊山双六』	-	1864	東京都立図書館デジタルアーカイブ	
	文久4年(1864)に刊行された江戸の名所案内図です。 「桜草」ページ数の記載なし 桜草の名所の一つとして「戸田の原」の地名が登場します。 アドレス： http://archive.library.metro.tokyo.jp/da/detail?tilcod=0000000004-00000021			
『江戸の自然誌』 (『武江産物志』を読む)	どうぶつ社	2002	462.13	本館1階・開架閲覧室
	『武江産物志』に登場する江戸時代の動植物について解説したものです。 p.207「桜草 紫雲英」 桜草の項目に「戸田原」の説明があります。 p.227「余話5 サクラソウの話」 桜草の自生地の一つとして「戸田ノ原」の地名をあげています。			

② 明治時代以降の名所案内、紀行文、物産品一覧等

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『日本産物志』 前編 武蔵部 上	文部省	1876		国立国会図書館デジタルコレクション
	『日本産物志』は、植物学をドイツ人シーボルトに学んだ理学博士、伊藤圭介（1803-1901）の著作です。国内で採取できる鉱物、動物、昆虫、魚類、植物等を地域ごとに一覧にして解説したものです。 p.14-15「志村戸田辺産」 志村戸田周辺の植物一覧の中に「サクラサウ」が挙げられています。			
『郊外探勝その日帰り』	有文堂書店	1914		国立国会図書館インターネット公開資料
	初版は明治44年（1911）に発行された東京近郊の旅行案内書です。元新聞記者の落合浪雄（劇作家、演出家 1879-1938）によるものです。 p.187-188「桜草 浮間が原」 浮間が原を案内した章に、「戸田の原にも桜草は十分にある」とあります。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/936569			
『日がへりの旅』 郊外探勝	東文堂	1919		国立国会図書館インターネット公開資料
	『日がへりの旅』は、松川二郎（新聞記者、旅行作家 1887-不明）が書いた旅行案内書です。 p.177-180「桜草の浮間原」 浮間ヶ原を紹介した章に、「近所の戸田ヶ原」も桜草で一面埋まっていると紹介されています。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/924599			
『東京から』 最新実査	東海堂書店	1921		国立国会図書館インターネット公開資料
	東京近郊の旅行案内記（著者： <small>ながたにさつよう</small> 永漢早陽（経歴不明））です。 p.80-83「浮間の原と赤羽」 浮間の原は、「戸田や尾久や千住の原」とともに江戸時代から知られた野生地だったとあります。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/964352			
『東京近郊写真の一日』	アルス	1922		国立国会図書館インターネット公開資料
	松川二郎が書いた旅行案内書です。 p.12「北の近郊」内 「横曽根原」とともに「戸田ヶ原あたり」には浮間ヶ原よりも桜草が多く、花も大きい。また、静かでのんびりしていると紹介されています。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/965057			
『カメラを携へて 東京の近郊へ』	東文堂	1922		国立国会図書館インターネット公開資料
	著者奥川夢郎（経歴不明）が趣味のカメラを持って東京近郊の名所を訪ね歩き記した紀行文です。 p.125-126「東北本線の沿線」 浮間ヶ原よりも「戸田ヶ原」の方が人も少なく桜草が豊富にあるという一文が登場します。浮間からは歩いても行かれるが、桜草の季節には乗合舟で行くこともできると紹介されています。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/964418			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手続きが必要です。

[▲ページのトップへ戻る](#)

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『近郊探勝 其日帰りと一夜泊り』	京屋書房	1922		国立国会図書館インターネット公開資料
	池田紫雲（経歴不明）の旅行案内書です。 p.87-88「赤羽、板橋附近」 桜草の名所の一つとして「戸田の原」をあげ、「戸田の原は横曽根原から戸田橋を渡ってすぐ」の場所だと説明しています。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/964474			
けいげつ 『桂月全集』2 紀行1「桜草」(明治41年)	桂月全集刊行会	1923		国立国会図書館デジタルコレクション
	大町桂月（詩人、随筆家 1869-1925）の紀行文です。 p.110-116「桜草」 荒川堤に桜を見に行ったら帰り道に「戸田が原」へ桜草摘みに行った人に遭遇する場面があります。			
『東京近郊一日の行楽』	博文館	1923		国立国会図書館インターネット公開資料
	『東京近郊一日の行楽』は、田山花袋（小説家、詩人 1872-1930）の紀行文です。大正12年（1923）に初版が刊行されました。 p.581-582「浮間ヶ原」 文末に「戸田ヶ原」にもたくさんの桜草があると紹介されています。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/972006			
『東京郊外 楽しい一日二日の旅』	九段書房	1925		国立国会図書館インターネット公開資料
	高橋寿恵（経歴不明）の旅行案内書です。 p.128-129「浮間の桜草」 「戸田橋の彼方の戸田ヶ原」も桜草の名所であると書いてあります。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/983180			
『東京近郊 日がへりの行楽』	誠文堂	1930		国立国会図書館デジタルコレクション
	松川二郎の旅行案内書です。 p.225「浮間ヶ原」 「戸田ヶ原も亦自生の桜草が多い。」とあります。			
『大東京の史蹟と名所』	博文堂	1930		国立国会図書館デジタルコレクション
	佐藤太平（経歴不明）の名所案内書です。 p.650「戸田の桜草」 「戸田の川縁から志村の後蓮沼村にかけて」桜草の自生地があり、「浮間の原」と共に桜草の名所であることを紹介しています。			
『武蔵野』	科学主義工業社	1941		国立国会図書館デジタルコレクション
	武蔵野台地の遺跡、地学、野草、樹木、建築等を各専門家が語ったものです。 p.197-201「春 酢 ^{たけなわ} の武蔵野」(本田正次「武蔵野の野草」内) 野草を紹介した章に、江戸時代は、「戸田の原」が桜草の名所の一つだったことが記されています。			
『日比谷高校百年史』 上	日比谷高校百年史刊 行委員会	1979	-	国立国会図書館
	p.72-73「戸田の「さくらそう」」 同校の『学友会雑誌（34号）』に掲載された桜草についてのレポートを転載したものです。桜草が戸田ヶ原に自生していた時代の思い出にも触れています。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手続きが必要です。

③ 花のガイド及び植物誌

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『花史雑記』	伊藤圭介	1800年代		国立国会図書館デジタルコレクション
	伊藤圭介の自筆本です。 「桜草」ページの記載なし 桜草自生地の一つに「武蔵ノ戸田ノ原」とあります。			
『花の趣味』	服部書店	1909		国立国会図書館インターネット公開資料
	三宅花圃（小説家、歌人 1869-1943）が書いた花に関する随筆です。 p.168-170「桜草」 桜草の草に「戸田の原は桜草ノ名所」とあります。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/889217			
『趣味の野草』 採集栽培	実業之日本社	1918		国立国会図書館デジタルコレクション
	前田曙山（小説家 1872-1941）による草花に関する随筆です。 p.32-36「さくらそう」 桜草自生地の一つとして「戸田」の地名があり、江戸時代には中山道の街道筋にあった「戸田の原」が桜草の名所であったと書いてあります。			
『東京の植物を語る』 郷土研究	文啓社書房	1935		国立国会図書館インターネット公開資料
	伊藤隼（経歴不明）が書いた植物誌です。 p.76-77「桜草の流行」、p.77「浮間ヶ原の桜草」、p.77「錦ヶ原の桜草」、 p.80-81「桜草売り」 「戸田の原」が桜草の名所の一つであったことが複数箇所に登場します。 アドレス： http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1235092			
『私の植物散歩』	筑摩書房	1987	470.4	本館・書庫
	木村陽三郎（植物学者 1921-2006）が書いた植物誌です。 p.68-73「桜草」内 「戸田ヶ原（埼玉県戸田市）に出ると、そこは昔のサクラソウの名所であった。」とあります。			
『花と歴史の武蔵野』	ぎょうせい	1988	T914.6	本館 2 階・郷土特集棚
	田中澄江（劇作家、随筆家 1908-2000）による随筆です。 p.26-27「桜草」 「子供の頃に、戸田に近い荒川の河川敷の枯れ芦の中に咲きさかっていた（中略）サクラソウ狩りに押し出した」とあります。			
『東京発花露めぐり』	自由国民社	2004	T472.1	本館 2 階・郷土特集棚
	山本研二（文筆家 1960-）による東京近辺の花の名所を紹介した紀行文です。 p.181「田島ヶ原」内「サクラソウのルーツ」 荒川の桜草のルーツについて述べた箇所で、かつては「戸田ヶ原」も桜草の名所の一つであったと紹介しています。 p.194「浮間公園のサクラソウ」内 江戸時代に流行した園芸種は、浮間ヶ原と「戸田ヶ原」に自生していたものを品種改良して作ったと書いてあります。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手続きが必要です。

[▲ページのトップへ戻る](#)

5 俳句、俳句歳時記等

① 江戸時代、戸田の桜草を題材にした俳句及び関係資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『増補 誹諧童 ^{わらわ まと} の的』 (『新日本古典文学大系』72「江戸座点取俳諧集」所収)	岩波書店	1993	918	本館1階・開架閲覧室
	宝暦5年(1755)に刊行された俳諧集です。 p.334「雪斎点」内 「桜 ^{さくら} 艸 ^{そう} わづかな ^な 銭 ^ね を詠 ^な やり」の句が紹介されています。下段に岩田秀行(国文学者 1949-)による校注があり、「戸田原あたり」から採取した桜草の鉢植えを見ながら詠んだ句との解説があります。 なお、『増補誹諧童の的』は、『未刊雑俳資料』第2にも収録されています。			
『誹風柳多留 ^{はいふうやなぎたる} 全集』11	三省堂	1978	911.45	本館2階・一般書
	『誹風柳多留』は、明和2年(1765)～天保9年(1838)まで、ほぼ毎年刊行されていた川柳の句集です。 p.207「144篇」内 144篇18には「春先 ^{はる} 八 ^{やち} 戸田 ^と も ^も 葎 ^の 野 ^の の ^の 桜草 ^の 」の句が収録されています。			
『誹諧 ^{はいかいけい} 鱧』3編 (『未刊雑俳資料』第3所収)	鈴木勝忠 謄写版	1959		国立国会図書館デジタルコレクション
	『誹諧鱧』は、明和5年(1768)に初編が出て以降60年あまり続刊された俳諧の手引書です。各宗派の点者が選んだ句を数作品ずつ掲載しています。 p.77「楽成庵 藤中温克」選の句 『誹諧鱧』3編には「楽成庵 藤中温克の選んだ句として「桜草今戸の土に戸田の土」が掲載されています。			
『誹諧鱧』26編 (『未刊雑俳資料』第29所収)	鈴木勝忠 謄写版	1965		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.37「柿園貞江坐 山田貞和」選の句 『誹諧鱧』26編には、「柿園貞江坐 山田貞和の選んだ句「桜草四五輪浮いて戸田の川」が掲載されています。			
『江戸文学地名辞典』	東京堂出版	1974	R910.2	本館2階・参考資料室
	p.340「戸田」 以下の2句が紹介されています。 「桜草今戸の土に戸田の土」(『誹諧鱧』3下) 「桜草四五輪浮いて戸田の川」(『誹諧鱧』26)			
『江戸の生業事典』	東京堂出版	1997	R384.3	本館2階・参考資料室
	p.147「桜草売り」 以下の3句が紹介されています。 「春先は戸田も葎野の桜草」(『誹風柳多留』144篇18) 「桜草今戸の土に戸田の土」(『誹諧鱧』3-77) 「戸田草堀って四文が朝さくら」(『誹諧鱧』35-37)			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手续が必要です。

[▲ページのトップへ戻る](#)

② 桜草の項目がある俳句歳時記

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『新俳句歳時記』 1春の部	光文社	1964		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.227「桜草」 桜草の解説に、自生地として「浮間ヶ原や戸田ヶ原が有名」とあります。桜草の句も紹介されていますが戸田の光景を詠んだものかは不明です。			
『カラー図説 日本大歳時記』春	講談社	1982	911.3	本館2階・参考資料室
	p.336「桜草」 解説文にかつての自生地の一つとして「戸田ヶ原」の地名が登場します。桜草の句も紹介されていますが戸田の光景を詠んだものかは不明です。			
『ふるさと大歳時記』2 関東ふるさと大歳時記	角川書店	1991	R911.3	本館2階・参考資料室
	p.435「浦和・大宮・春日部周辺」内「川口」 「戸田川」の見出しの後に「戸田川や早く来て摘む桜草」（野村喜舟 ^{きしゅう} （俳人1886-1983））の句があります。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手续が必要です。

6 郷土資料（戸田、中山道、荒川）

① 戸田市の歴史を調べることができる資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田市史』 通史編 下	戸田市	1987	T213.4	本館2階・戸田市関連資料
	p.630-632「戸田市の誕生と市勢の発展」内 かつて戸田原には桜草が自生していたこと、江戸時代には花の名所となっていたこと、昭和51年（1976）には「市の花」に指定され保存会の人々によって保存されるようになったこと等が書かれています。			
『戸田市史研究』3	戸田市	1979	T213.4	本館1階・とだしの本棚
	p.30-31 榎本武雄「桜草の思い出」 著者の幼い頃（大正時代初期）には、桜草をとって来ては庭に植えたという話、小学校の遠足で桜草の花見をした話等の回想文が掲載されています。			

[▲ページのトップへ戻る](#)

② 戸田ヶ原自然再生事業に関する資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田ヶ原 自然再生事業 全体構想』	戸田市	2009	T519.8	本館2階・戸田市関連資料
	<p>この資料は、戸田ヶ原自然再生事業に関する構想をまとめたものです。</p> <p>p.8-9「かつての戸田ヶ原の自然」 桜草が咲いていたころの戸田ヶ原のイメージ図が掲載されています。</p> <p>p.10-13「戸田ヶ原の社会的・文化的状況の移り変わり」 江戸時代昭和時代初期にかけての戸田ヶ原の様子を年表形式で紹介しています。桜草が登場する史料も紹介しています。</p> <p>以降のページ 桜草以外の動植物も含め、再生計画について記述されています。</p> <p>巻末の資料編 2-24「戸田ヶ原関連資料及び関連事項年表」 戸田ヶ原に関する史料を年表形式で紹介したものです。桜草に関する図書、新聞、及び雑誌記事も多数あり、関係箇所はすべて転載されています。</p>			
『戸田ヶ原 自然再生事業 全体構想』 概要版	戸田市	2009	T519.8	本館2階・戸田市関連資料
	<p>この資料は、戸田ヶ原自然再生事業に関する構想をまとめたものの概要版です。</p> <p>p.1-3「戸田ヶ原の歩み」 江戸時代、戸田ヶ原が桜草の名所だったことを資料からの引用で紹介しています。後半は、大正時代から昭和時代初期にかけて桜草が消滅していったことを記す資料を紹介しています。</p> <p>p.6-7「かつての戸田ヶ原の自然と人とのかわり」 桜草が咲いていたころの戸田ヶ原のイメージ図が掲載されています。</p> <p>p.15-19「サクラソウなどの野生の草花が彩る湿地の再生」 桜草成育地の環境作りについて計画の概要が記されています。</p>			
『戸田ヶ原 自然再生事業 実施計画』	戸田市	2010	T519.8	本館2階・戸田市関連資料
	<p>1冊 戸田ヶ原自然再生事業の実施計画書です。随所に桜草の植栽に関する計画が掲載されています。</p>			
『戸田ヶ原自然再生 Newsletter』 vol.1～	戸田市公園緑地課他	-	T519.8	本館2階・戸田市関連資料
	<p>戸田ヶ原自然再生事業の活動報告を伝えるための広報紙です。桜草の植栽経過、桜草に関するイベント情報等写真付きで掲載されています。2010年4月からスタートし現在も刊行中です。</p>			
『戸田ヶ原 ワークブック』	戸田市	2013	T519.8	本館2階・戸田市関連資料
	<p>この資料は、戸田ヶ原を楽しく学べるよう子供向けに作成されたワークブックです。</p> <p>p.1「戸田ヶ原のあゆみ」、p.2「戸田ヶ原年表」、p.3「戸田ヶ原の自然」、 p.5「サクラソウ」、p.6「さくらそうの花の切り紙をやってみよう」、 p.7「サクラソウの花見」 上記のページに「桜草」が登場します。また、巻末に戸田ヶ原再生キャラクター「とだみちゃん」の説明があり、「サクラソウの花をあしらった服と帽子を着ている」とあります。</p>			
『戸田ヶ原 自然再生パンフレット』 改訂版	戸田市	2015	T519.8	本館2階・戸田市関連資料
	<p>戸田ヶ原自然再生事業に関する広報パンフレットです。</p> <p>1枚 「戸田ヶ原」がかつて桜草の名所だったこと、再生計画の中に桜草が彩る湿地をつくる計画があること等が記されています。</p>			

③ 戸田市の広報誌

誌名/発行日	出版者	出版年	分類	本がある場所
『広報とだ』 平成7年6月1日号	戸田市役所秘書課	1995	T318.2	本館2階・戸田市関連資料
	<p>p.11「戸田ヶ原をもう一度」 「戸田市さくら草保存会」会長による会の紹介記事に、戸田ヶ原の桜草は、絶滅後も戸田ヶ原から持ち帰った桜草を自宅で栽培していた人がいたこと、保存会は、その桜草を保護育成することを目的に発足されたこと等が書かれています。</p>			
『広報とだ』 平成13年4月1日号	戸田市役所秘書広報課	2001	T318.2	本館2階・戸田市関連資料
	<p>p.15「このまち文化財 桜草」 戸田市の花「桜草」について、その歴史を簡単に説明した記事です。</p>			
『広報戸田市』 平成20年1月1日号	戸田市役所秘書広報課	2008	T318.2	本館2階・戸田市関連資料
	<p>裏表紙「戸田ヶ原自然再生プロジェクト」 戸田ヶ原に生息していた動植物を取り戻すために再生プロジェクトがスタートすることを伝えた記事です。戸田ヶ原には桜草が群生していたとあります。</p>			
『広報戸田市』 平成22年1月1日号	戸田市役所政策秘書室	2010	T318.2	本館2階・戸田市関連資料
	<p>p.3-5「戸田ヶ原をよみがえらせよう」 戸田ヶ原自然再生事業に関する特集記事です。戸田ヶ原がサクラソウの名所だったことに触れ、桜草を植栽する計画があることを伝えています。</p>			
『広報戸田市』 平成28年5月1日号	戸田市役所政策秘書室	2016	T318.2	本館2階・戸田市関連資料
	<p>p.4-5「自然との共生を目指して」 戸田ヶ原再生の取り組みについての報告記事です。桜草植栽の報告及び「戸田ヶ原さくらそう祭り」の紹介記事があります。</p>			

※平成29年以降の記事は未確認

④ その他の戸田市関連資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『サクラソウと その文化史』	磯田洋二	1976	T627.5	本館2階・郷土特集棚
	<p>戸田市で開催された講座のテキストです。 桜草の文化史年表、荒川沿岸の自生地分布図等が掲載されています。</p>			
『資料 サクラソウのこと』	河原片	1989	T627.5	本館2階・郷土特集棚
	<p>戸田民俗探訪倶楽部の会員である著者（河原片）が、戸田の桜草について文化史の観点から調査した報告書です。</p>			

[▲ページのトップへ戻る](#)

⑤ 中山道に関する資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『巡歴中山道』	木耳社	1976	T682.1	本館2階・郷土特集棚
	中山道宿場周辺の土地の歴史を綴った紀行文です。著者は中西慶爾（書道史家 1897-1987） p.20-23 「戸田の渡し場と桜草」 「戸田ヶ原」は桜草の名所の一つとして有名だったことが紹介されています。			
『中山道物語』	吉野教育図書	1981	T291	本館2階・郷土特集棚
	江戸時代後期の中山道の様子を伝えながら街道歩きをしていく物語です。著者は金子兜太（俳人 1919-） p.36 「武蔵野を行く中山道」 「戸田ヶ原などは四月になると桜草がいちめんに咲いて」と紹介しています。			
『今昔中山道独案内』 <small>こんじゃく ひとり</small>	日本交通公社出版事務局	1994	T291.5	本館2階・郷土特集棚
	中山道をたどりながら現在の街の様子を紹介した道中案内記です。著者は今井金吾（文筆家 1920-2010） p.29-36 「板橋より蕨へ」内 『諸国道中袖鏡』からの引用文が掲載されています。			

⑥ 荒川に関する資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『とびだせ 荒川たんけん隊』	荒川百科編集委員会	1998	T291.3	本館2階・郷土特集棚
	小学生向けの荒川周辺ガイドです。 p.43 「江戸っ子の花、サクラソウ」 「昔、サクラ草見物でにぎわった所」の図中に、「上戸田ッ原」「笹目ノ原」「新曾ノ原」という地名が登場します。			
『荒川下流誌』本編	リバーフロント整備センター	2005	T517.2	本館2階・郷土特集棚
	荒川放水路沿いにある下町の歴史的及び社会的環境の変遷等をまとめた地域誌です。 p.335-336 「サクラソウとマルハナバチ」 荒川下流域の生態環境について述べた章に「戸田原」がかつて桜草の名所であったことが載っています。			
『大河紀行荒川』	白山書房	2012	T291.3	本館2階・郷土特集棚
	著者伊佐九三四郎（紀行作家 1932-）が荒川の源流から東京湾までを歩いて旅した旅行記です。 p.158-161 「田島ヶ原のサクラソウ」 「戸田ノ原」が桜草の群生地だったこと、桜草消滅の原因などが書いてあります。			

[▲ページのトップへ戻る](#)

7 戸田市以外の地域の資料

① 埼玉県に関する資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『北足立郡誌』	名著出版	1972	T213.4	本館2階・郷土資料架
	p.203「名所、旧蹟」内「第一、名所」の中「四、戸田原桜草」 「戸田原」の所在地、桜草の名所だったこと、古くは徳川将軍が鷹狩を催した場所だったこと等が記載されています。			
『埼玉の 日本一風土記』 補訂版	幹書房	2014	T291.3	本館2階・郷土資料架
	埼玉県の風物誌です。著者は関根久夫（元埼玉県職員 1943-） p.16-21「県の花「サクラソウ」」 江戸時代の桜草の自生地の一つとして「戸田ヶ原」の地名が登場しています。			

② 浮間ヶ原に関する資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『岩淵町郷土誌』	歴史図書社	1979		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.353-355「浮間ヶ原」 桜草の自生地について紹介している箇所、「戸田」 ^{はやら} 「早瀬」の名も登場します。			
『水ぬるむ浮間の 春の桜草』 浮間ヶ原桜草園場案内/パンフレット	東京都北区	1989	T479.9	本館2階・郷土特集棚
	「浮間ヶ原の桜草」ページの記載なし 浮間ヶ原の桜草の歴史について述べている箇所に「戸田」の名も登場します。			
『板橋史談』150号 (1992年5月)	板橋史談会	1992		国立国会図書館/板橋区立図書館他
	p.3-12 芦田正次郎「都立浮間公園をめぐって」 『東京近郊一日の行楽』の引用文に「戸田ヶ原」が登場します。 この資料は取寄せできません。			
『北区史』民俗編3	北区	1996	-	埼玉県立熊谷図書館
	p.37-45「浮間の桜草」 江戸時代の桜草の名所として「戸田ヶ原」の名が登場します。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。本館2階カウンターで利用できます。申込手続きが必要です。

[▲ページのトップへ戻る](#)

③ 田島ヶ原に関する資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『桜草』 日本さくらそう同好会会報 創刊号 複製	日本さくらそう同好会	1969	T627.5	本館2階・郷土特集棚
	p.10-11 大垣晃一「荒川流域のニホンサクラソウについて考察二つ三つ」内 戸田の桜草は早くから姿を消したとの報告があります。 p.35 よねきち「いまは語草となった徳丸が原のサクラソウ」内 「戸田が原は、昭和のかなり晩くまでサクラソウの自生地として知られていた が」とあります。			
『天然記念物 緊急調査報告』 埼玉県史跡名勝天然記念物 調査報告書第2集	埼玉県教育委員会	1978	T472.9	本館2階・郷土特集棚
	田島ヶ原の桜草自生地に関する調査報告書です。荒川水系流域の桜草に関する調 査報告も掲載されています。 p.63-64「戸田市南町」(旧上戸田ッ原)、p.64「戸田市新曾南・氷川町(旧 新曾ノ原)」、p.64-65「戸田市下巻目(旧巻目ノ原)」 上記の項目に各場所の詳しい位置、自生していたころの様子、自生地が消えた経 緯等の調査報告があります。			
『サクラソウ』	浦和市郷土文化会	1979	T479.9	本館2階・郷土特集棚
	田島ヶ原の桜草自生地保護活動の歴史、桜草栽培の歴史、桜草栽培の方法等、桜 草についてまとめたものです。 p.13「荒川流域のサクラソウ自生地」 江戸時代は、「戸田原」も桜草の名所だったと書いてあります。			

④ その他の地域の資料

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『東京府北豊島郡誌』	名著出版	1979		国立国会図書館デジタルコレクション
	p.426「桜草の名所」 「戸田の川縁より志村の後蓮沼村にかけて」春は桜草の名所となることが書いて あります。			
『足立風土記稿』 地区編3 江北	足立区教育委員会	2000	-	国会国会図書館
	p.289-299「野新田の桜草」 江戸時代、桜草の自生地として「浮間、戸田、千住、尾久」の地名が挙げられて います。			
『都市に自然を 回復するには』	どうぶつ社	2004	519.81	本館1階・開架資料室
	p.30-32「尾久の原のサクラソウ」、p.33「江戸の近くのサクラソウ」 江戸時代は「戸田原」や「野新田」の桜草が有名だったことが紹介されています。			

★「国立国会図書館デジタルコレクション」とは、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。
本館2階カウンターで利用できます。申込手续が必要です。

[▲ページのトップへ戻る](#)

8 新聞記事

① 明治、大正、昭和時代

※閲覧できる場所が明らかな資料のみ掲載

新聞紙名/年月日	出版者	閲覧できる場所(資料名)
『東京朝日新聞』 1891年4月14日	朝日新聞社	本館2階カウンター(聞蔵Ⅱビジュアル※1)
	p.3「遊歩案内」 桜草の項目に「野生八戸田河原、野新田、千住川岸、尾久原」とあります。	
『埼玉新報』 1909年4月27日	埼玉新報社	国立国会図書館※2
	p.3「戸田河原の桜草(上)」 桜草の名所として「戸田河原」が紹介されています。翌日の新聞には「戸田河原の桜草(下)」と題して「戸田河原」への行き方が詳しく載っています。	
『埼玉新報』 1909年5月8日	埼玉新報社	国立国会図書館※2
	「桜草狩り(下)」ページ不明 戸田ヶ原での桜草狩りの様子を伝えたものです。当時の戸田ヶ原の様子がうかがえます。	
『東京朝日新聞』 1925年3月20日	朝日新聞社	本館2階カウンター(聞蔵Ⅱビジュアル※1)
	p.5 武田久吉「桜草の新種、珍種(一)」 「かの武州荒川下流に沿ふ戸田、浮間、あるひは田島ヶ原などは」桜草の野生地だと紹介しています。	

※1「聞蔵Ⅱビジュアル」は、戸田市立図書館で閲覧可能なオンラインデータベースです。本館2階レファレンスカウンターで利用できます。利用方法、複写範囲等詳細は、[こちら「当館で利用できるオンラインデータベース」のページ](#)を参照してください。

※2 国立国会図書館新聞資料室にてマイクロフィルムでの閲覧が可能です。詳しい利用案内は、[国立国会図書館新聞資料室の案内ページ](#)を参照してください。

② 平成時代

※当館で閲覧できる資料のみ掲載

新聞紙名/年月日	出版者	閲覧できる場所(資料名)
『埼玉新聞』 1994年4月16日	埼玉新聞社	本館・書庫(『埼玉新聞縮刷版』)
	p.11「サクラソウ 1500 芽を植栽」 戸田市さくら草保存会が道満グリーンパークに植栽した桜草が開花し、訪れる人を楽しませているという記事です。	
『埼玉新聞』 1995年1月20日	埼玉新聞社	本館・書庫(『埼玉新聞縮刷版』)
	p.13「戸田市の花育てよう サクラソウ講座を開講」 桜草をテーマにした講座が中央公民館で開催されるという告知記事です。	
『埼玉新聞』 1995年3月2日	埼玉新聞社	本館・書庫(『埼玉新聞縮刷版』)
	p.15「市の花“満開”に期待」 桜草をテーマにした講座が中央公民館で開催されるという告知記事です。	
『よみうり タウンダイジェスト』 1995年3月19日	読売新聞社	戸田市立図書館本館・戸田市関連郷土資料/分類 T050
	p.1「プレイバック サクラ草 山野草講座で保存を」 中央公民館で開催された「戸田のサクラ草を育てよう」という講座の報告記事です。	

[▲ページのトップへ戻る](#)

新聞紙名/年月日	出版者	閲覧できる場所(資料名)
『ふれあい朝日』 1997年2月17日	朝日新聞社	本館・書庫(『埼玉新聞縮刷版』)
	p.3「さくら草保存会が栽培指導」 中央公民館で開催された「さくら草入門講座」の報告記事です。	
『ふれあい朝日』 1997年3月3日	朝日新聞社	本館・書庫(『埼玉新聞縮刷版』)
	p.1「さくら草保存会(戸田)小幡昭氏(蕨)が受賞 県文化ともしび賞」 戸田市さくら草保存会が、埼玉県内で地域の文化に貢献している個人及び団体に贈られる「文化ともしび賞」を受賞したという記事です。	
『埼玉新聞』 2012年2月19日	埼玉新聞社	本館2階・新聞架(『埼玉新聞縮刷版』)
	p.14「よみがえれサクラソウ 戸田が原に700株植苗」 「戸田が原自然再生エリア」で神保市長がボランティアの人たちとともに桜草の植栽を行ったという記事です。	
『朝日新聞』 2014年6月5日朝刊	読売新聞社	本館2階カウンター(聞蔵Ⅱビジュアル ^{※1})
	p.28 埼玉2「戸田のサクラソウ 荒川沿いすくすく」 4年前から取り組んでいる桜草の植栽事業で、「初めて生育数が植え付け数を上回ったことが市の調査で分かった。」という報告記事です。	

※1「聞蔵Ⅱビジュアル」は、戸田市立図書館で閲覧可能なオンラインデータベースです。本館2階レファレンスカウンターで利用できます。利用方法、複写範囲等詳細は、[こちら「当館で利用できるオンラインデータベース」のページ](#)を参照してください。

資料の紹介について

- 今回紹介した資料は、当館が把握しているすべての資料ではありません。一つの資料に対し、複製版や改訂版、出版社違いの資料がある場合、代表1点の紹介にとどめました。
- 資料の選択については、当館所蔵の資料を第一にし、次に国立国会図書館のデジタル化資料、続いて埼玉県立図書館の館外貸出しできる資料を優先して紹介しました。

所蔵場所の紹介について

- 今回紹介した資料の所蔵場所については、戸田市立図書館を優先して案内しました。
- 当館未所蔵の資料については、埼玉県立図書館、国立国会図書館等可能な限り戸田市民が利用できる範囲で紹介しました。
- また、戸田市立図書館内で複本がある場合は、本館2階の郷土資料を優先して紹介しました。郷土資料は貸出しできません。貸出しできる資料があるか、分館及び分室で所蔵している資料があるか等複本の確認が必要な場合は、OPACで検索してください。



今回、紹介した資料以外にも「戸田ヶ原の桜草」について記述された資料を知っている方は、戸田市立図書館まで情報の提供を御願います。資料収集の参考にします。